

新型コロナウイルスに振り回された1年

新しい活動スタイル 模索が続く

令和2年度の活動も終わりました。いよいよ市や県に、この活動の報告をする時期となります。

新型コロナウイルス感染のニュースが流れたのは令和2年1月のことでした。しかし、この山口県ではそれほど「重大事」とは考えていませんでした。それらの考えがひっくり返ることになったのは、令和2年2月27日、安倍首相の日本中の公立学校を休業させるといふ緊急記者会見ではなかったでしょうか。

そこから外出の自粛、マスクの着用、手洗いの励行、大勢での飲食の自粛、今まで考えたこともない事柄が次々と押し寄せてきました。

会議も次々に中止、イベントも中止



大森農道の法面に防草シートを取り付け

や延期、今まで当たり前前にできていたことが「こんなにありがたいことだったのか」実感させられました。

その中で、屋外での活動が多い当会では、無理がないように、また感染リスクをできるだけ軽減させるように、活動してきました。しかし、夏の地域との交流祭り、冬の餅つき体験大会などができなくなりました。

また事務局のための研修だけでなく、毎年様々な知見に触れるチャンスである「農村未来を考える研修会」も中止となりました。そのような中でも、秋には上郷小学校の2年生を迎えて、

「稲刈りの見学学習を実施できました。米作りの難しさと楽しさを伝えることができたのではないのでしょうか。児童から「何粒のお米がとれますか」と聞かれたときには、びっくりさせられませんでした。と同時に私たちとは全く違う視点があることに気づかされました。

何とか、一年間活動できたのは、会員皆様のご努力のたまものです。あらためて感謝申し上げます。

いよいよワクチンの接種が始まるよう切りたいと思います。何とかこの難局を乗り越えたいと思います。会員の皆様、ますますご愛顧くださいませ。

環境通信のWEB 書庫を作成

皆様のおかげで小紙は今回も何とか発行にこぎつけました。第167号となります。2007年（平成19年）の5月に創刊号を発行して以来、足掛け14年、毎月の出来事をお伝えしてまいりました。

これらをまとめてどこかに保管しておいてはどうかというお考えは、何度か頂きました。なかなか手がつかないままになっておりましたが、ようやくインターネット上に、専用の書庫を設けることにしました。

実際の書庫ではありません。必要な時にいつでも見ることができるものです。スマホやパソコンで、下記のURLを打ち込むか、QRコードを読み込ませるかしていただきますと、八方原の地図のある画面が出てまいります。その地図の下側に各年ごとのページへのリンクがあります。そこを開きますと、その年の各号が読めるようにしてあります。



<http://www.harataco.org/YKM/>

大森農道の擁壁を補強



長い防草シートを取り外して、工事をスタート

大森農道の擁壁の損傷については、前号でも詳しくお伝えしてきましたつもりです。当初はこの法面の防草工事として考えていましたが、損傷がはつきりしたので、その修復を一番に考えることとしました。

2月から業者との協議や見積もりの依頼などの手順を踏み、地元の株式会社亀井組に発注することになりました。

長寿命化事業の工事では、会員の自主施工が必須の条件です。2月28日、工事の前処理として、防草用のグラン



暑さ 30 cm、高さ 80 cmの補強コンクリート

ドシート撤去を行いました。何度も何度も手直しを行ってききましたので、あちこちに破れなどがありますが、そのままシートをゴミにするのは環境保全の意味からも許されません。再利用ができるように、きちんと確保しました。

工事は専門家のアドバイスを入れて、損傷部分にケミカルアンカーというコンクリートに特殊な接着剤で固定した鉄筋に格子状の鉄筋を組み合わせ、その部分に強度の高いコンクリートを打設しました。(左の写真)

また防草用のランドシートを固定しやすくするために路肩部分にコンク

リートの縁がかりを作成しました。これにより擁壁部分と淵がかり部分に、アンカーで容易に固定することが可能になります。

3月21日に、出来上がった部分にランドシートを取り付けました。取り付けには維持管理を考慮して短辺に一枚ずつ取り付ける方法をとりました。大きなシート長辺に従って取り付けると損傷があったときの補修が大変であること、風の影響を一枚よりも分散して受けた方が、損傷に対して強いと判断しました。

作業は複雑で時間がかかりました。作業は複雑で時間がかかりました。が、良い結果が得られると思います。



完成した擁壁と新たな縁がかりを検査 (3月20日)

八方原橋から国道へS字の連続か



クレーンや発電機などたくさん稼働中

国道9号新町交差点の改良工事が少しずつ進んでいます。

秋方面からの道路はJ R山口線の下を通り抜けるために、S字を書くように東に進み、線路をくぐると四十八瀬川を横断して、林公土手(林雄三の河川改修の功績をたたえた名称)に接続します。

四十八瀬川横断の橋梁工事が始まっています。大きなクレーンが連日うなりをあげて、橋脚工事に取り組んでいます。

完成すると柳井田、新町それに八方原の連絡が大きく変わります。